

本書を書き終えてみて、

自分の子供たち世代に伝えたいことは、

これで一通り全部伝えられた、

という満足感が著者にはあります。

息子にも、読者にも、本書が、経済と付き合う上で、

いつまでも役に立つ「明るい人生のマニュアル」で

あり続けることを、著者は心から願っています。

## 第一章 働き方・稼ぎ方

「昭和生まれの働き方常識」は「割が悪い」

「新しい働き方」は効率性と自由を求める

株式による報酬を取り込め

「株式で稼ぐ働き方」を実践せよ

株式性の報酬には複数の魅力がある

大金持ちになる方法の鍵は「有利で安全なレバレッジ」

単純な借金は危険過ぎる

不動産投資は楽なものではない

信用取引、FX、暗号資産は借金を伴うギャンブルだ

「クビ」のコストは総合的に小さい

時代はゆっくりと、まだら模様に変化する

## 第二章 お金の増やし方と資本主義経済の仕組み

お金の運用について必要な「基本」はこれだけ

借金なしに済む「生活資金」は常に確保せよ

運用資金は全額「全世界株式のインデックスファンド」でいい

どうしても損が嫌なら「個人向け国債変動金利型10年満期」

金融機関はネット証券大手がいい

運用の3原則は「長期」「分散」「低コスト」

「長期投資」は売り買いせずじっと持つ

集中投資よりも分散投資が断然いい

手数料とは「確実なマイナスのリターン」

インデックスファンドなら何でもいいわけではない

アクティブファンドはほぼすべてがダメ

アクティブファンドがダメな理由は「平均投資有利の原則」

「全世界株式」を選ぶ理由も「平均投資有利の原則」

「全世界株式のインデックスファンド」の具体的な運用商品例



株式投資の正確な意味を知る

生産には「資本」と「労働力」を使う

資本とは雑多な財産に貼られたラベルに過ぎない

典型的には、労働者が利益を提供してくれる

リスクを取りたくない労働者が安い賃金で我慢する

「取り替え可能」な労働者は立場が弱い

資本家と債権者の力関係は変化する

資本家をカモにする「労働者タイプB」の出現

「労働者タイプA」のみになることを全力で回避せよ

「労働者タイプB」をほどほどに目指せ

株式のリターンは成長からではなく株価形成から生じる

株価は将来利益の割引現在価値だ

高成長でも、低成長でも、割引率が同じなら期待リターンは同じ

分散投資は投資家が自分でできる運用の改善だ

株式投資は「働かないで稼ぐ」ことではない

お金の問題は感情を排して理屈と計算で考える

人間関係とお金の問題を完全に切り離せ



保険とは「損な賭け」のことである

お金は、シンプルに管理して、おおらかに使う

経済格差は「資本のリスク」と「リーダーシップ」から生じる

### 第三章 もう少し話しておきたいこと

#### 働き方のコツ、覚書

自分の人材価値を中心に考える

最初の仕事は「興味が持てて」、「倫理観に反しない」もの  
早く「転職できる人材」になる

自己投資で得るものは、知識・スキル・経験・人間関係・時間  
時間の値段を意識する。「年収1千万円は時給5千円」

一つ分野への自己投資の目安は「2年」

「頭のいい奴」、「面白い奴」、「本当にいい奴」と付き合う

人間関係の基本は「時間厳守」と「爽やかな挨拶」



勉強会は幹事を引き受ける

会食は手抜きをするな

お酒は「ひとクラス上」を飲め

キャリアアップランニングで意識する「28歳」、「35歳」、「45歳」

28歳は、30代前半を活かすためのタイムリミット

35歳で人材としての評価が定まる

45歳がキャリアの曲がり角

転職は「人材価値を活かす」ための手段だ

転職していい理由は3つ

転職を「常に」意識する

転職の「コスト」を意識する

小さくても副業のチャンスは逃がすな

本業も副業も時々見直せ

ワークライフバランスは「ほどほど」に

お金は必要なだけ稼げばいい

機会費用を見落とすな

サンクコストにこだわらな

評論のコツは利害と好き嫌いの棚上げ



## 小さな幸福論

幸福の決定要素は、実は一つだけ

お金と自由とは緩やかに交換可能だが、それで幸福か？

モテない男は幸せそうに見えない

仲間内の賞賛には高い価値がある！

価値観の99%は他人が作った概念でできている

仲間内の評価には「強過ぎる効果」がある

自己承認感によるマインドコントロール

複数の「場」を意識的に持つ

他人との比較という厄介な問題がある

「2割増しの自由」を複数組み合わせよ

「自分の嬉しいこと」を言語化せよ

「モテ」の秘訣はただ一つ

上機嫌で暮らせ！

付記

大人になった息子へ——息子への手紙全文

あとがき